

BLS SEMINAR 2011

2011/8/24

Basic Life Support (BLS)講習会

患者さんが万一急変したときにどのように対応するかは医療従事者にとって大切なことです。当医院では定期的にAED講習を含めた訓練を行っています。今回の企画、実行担当の中山主任看護師に話をうかがいました。

～：今回の救急講習会の企画を担当されましたが、一番強調したかった点はどのようなことですか？

一：患者さんの状態が急変するという、突如の出来事にも職員全員で協力して対応ができるよう講習会を実施しました。救命、救急の際に、それぞれのスタッフの役割と行動、スタッフ間の連携をはっきりさせることが一番の目的でした。

～：資料を整えるにあたり、苦労されたことはありますか？

一：院外と院内での急変を想定し、それぞれの対応を資料として作りました。練習用の人形が準備できたので、医療従事者として院外での急変にも対応できるように資料を作成しました。院内では医療器具を使用し、それぞれの職種が協力し合って行動できるように資料を作成しました。

～：実際講習会を開催してみてもスタッフの動きや反応はどうでしたか？

一：最初はぎこちない動きで、前回の訓練の内容もところどころ忘れていたようですが、何度か練習するうちにそれぞれの



部署での動きもスムーズに行えるようになっていました。

そのうちに自分たちの動きを振り返り、より良い方法や改善点についての話し合いが自然となされていました。その為か、最初と終わりでは動きに随分無駄がなく行動できていたように思います。

～：参加された方の感想（下記参照）がありますが、どのように思われますか？

一：今回の訓練によって、自信がもてた人、自分の役割や動き、他のスタッフとの連携について学ん

だ人それぞれでした。今までの経験があっても無くても、普段やり慣れていないことは、意外と思い通りにいかなかったりするものです。たとえ訓練でうまくできたとしても実際その通りいくともかぎりません。急変時に他のスタッフと連携をスムーズに行いケアできるよう、これからもこのような機会を設け訓練を重ねていきたいと考えています。（救急練習用一式をお貸し頂いた厚生連高岡病院麻酔科廣田幸次郎医師のご好意に深謝致します。）



急変した患者様を講習の時と同じ様にスムーズに動き対応できるかは実際にはわかりません。でも研修をした事により自分がどう動き、何をしなければいけないのかわかりスタッフ同士で話し合う事もできたのでよかったです。（E.M）

頭で分かっている、実際にやって見たら上手く動けず…。頭で覚えるのではなく定期的に訓練して体で覚えたいと思いました。（A.N）

いろいろな緊急時を想定し、訓練を行え良かったです。こういうことがなければ一番なのですが、いざというときも

慌てず素早く安全に対応できるように、繰り返しの訓練を希望します。（N.M）



今回の講習で心肺蘇生法を学び、実際に実技をし、以前より身につけることができました。各場面を設定した実技演習では、自分がとる的確な行動や役割、スタッフとの連携など学ぶことができました。今後緊急の場面に遭遇した際には今回の講習で学んだことを活かし、速やかに対応したいと思います。（N.A）

訓練によって、もしもの時に冷静に行動出来る自信ができましたが、同時にそのような事態にならないように、患者様にはいつも元気でいて頂きたいとも思いました。（N.H）